

【今年度の努力目標】

児童生徒のよりよい生き方の実現を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善に努める。



＜確かな学力の育成＞ 学力の向上

小学部 - A 中学部 - A 高等部 - A

- 小学部では、医療との連携を通して適切な指導方法や配慮事項等を学び、指導に生かすことができました。日頃は病棟内で学習する児童が学習棟に登校して学習し、経験を広げることもできました。グループ研修においては、実態に応じた発問の仕方の工夫や興味関心に合わせた課題や教材等の提示により、児童の自ら学習に向かい、考えようとする姿を引き出すなど、授業改善に努めることができました。
- 中学部では、保護者や医療との連携を密にし、それらを踏まえスタッフ会や教科担当者間で一人一人の状況を共有し、体調や特性等に応じた学習環境や指導体制を整え支援に当たることができました。グループ研修においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から具体的な手立て、教材等の工夫・検討を行い、授業づくりを行うことができました。
- 高等部では、共通理解を図るべき指導内容、支援方法について担当者間で具体的な話し合いをもち進めることができました。グループ研修においては、病気が障がいの特性に基づく「主体的・対話的で深い学び」を目指して、自立活動の意義や目的を確認、共有しながら取り組むことができました。

＜豊かな生活の実現＞ 小・中・高一貫したキャリア教育の充実

小学部-A 中学部-A 高等部-A 進路指導部-A

- 小学部では、中学部・高等部での作業学習の体験・見学やその後の振り返りを通して、児童が働くことの大変さを知り、働くためには何が必要かを考えることができました。校外学習では、施設の利用の仕方や公共の場におけるマナーを学んだり、身近な仕事に触れたり経験を広げることができました。
- 中学部では、地域の書店やスーパーマーケットでの職場体験や、校内における実習を実施しました。体験を通して、働くことの大変さを知ったり、就きたい職業について考えたりすることができました。個別面談では、進路調査の結果をもとに卒業後の進路について話し合う機会を設定し、必要な情報を保護者に提供することができました。
- 高等部では、作業学習や現場実習、作業製品販売会などを、生徒の能力や適性と関連付けながら取り組めるよう工夫することで、生徒自身が今学んでいることと将来とのつながりについて考えたり、見通したりする機会となりました。次年度は「職業と生活」を教科として新設し、キャリア教育の一層の充実を図っていきます。
- 進路指導部では、個別の進路相談の回数を増やし、保護者との情報共有の充実を図りました。進路希望や生徒の病気や特性に応じた見学先や実習先の選定を行うことができました。また、既卒者に対しても定期的に職場に出向き、仕事の状況や家庭での生活状況について確認するなどの追指導も実施し、定着支援に努めました。

＜センター的機能の充実＞

地域のニーズに応じた支援の充実

地域支援センター -A 情報教育部 -A

- 教育支援アドバイザーを中心とした各関係機関との支援会議や、延べ124件（1月現在）の相談支援、5回の研修支援を実施し、相談者のニーズに合わせた支援に努めました。病気の児童生徒のほかにも、発達障がいや行動障がいのある児童生徒への支援についてなど、今後も専門性の向上を図りながら地域のニーズに応じた支援に努めていきます。
- 情報教育部では、学校 Web ページで各学部の行事や、学校からの研修会等のお知らせを掲載しました。今後も迅速な情報発信と更なる内容の充実にも努めます。

＜健やかな体の育成＞ 健康・安全生活の充実

保健部-A 生徒指導部 - A 学校保健委員会 - A

- 保健部では食育コンクールや親子食育講座、各学級の自立活動への協力など、ニーズに応じた保健指導を行いました。各学級、学部との連携により、児童生徒自身が健康管理に取り組むことができるようになってきています。
- 生徒指導部では、外部講師を活用した交通安全教室や携帯安全教室の実施、生活目標の提示やあいさつ運動、生活チェック表の配付を通して、児童生徒の安全な生活に対する意識を高め、基本的生活習慣の確立に付与することができました。「すまあと通信」の発行等により家庭に対して発信し、理解と協力を得ることができました。
- 学校保健委員会では、個別の面談において自分手帳を活用しながら健康課題について話し合うことができるよう働き掛けました。また、各学部での取組を全職員に周知し共有する機会を設定し、指導に生かすことができました。

＜豊かな心の育成＞ 道徳教育や交流及び共同学習の充実

各学部-A 渉外部-A

- 各学部において、近隣の学校や居住地校、ICTを活用した他県の学校との交流、清掃ボランティア等を実施しました。活動内容や方法を工夫し繰り返し取り組む中で児童生徒が人とのかわりを広げたり、人の役に立つ喜びを感じたりすることができました。
- 渉外部では、松明製作のPTA活動を実施し、地域のボランティアの方々と生徒、保護者、教員とが協力し合って活動することができました。掲示板やホームページの活用を通して情報を発信し、様々な取組を周知することができました。

＜教師の専門性の向上＞ 病弱教育の専門性の向上 研修部-A 教務部-A

- 研修部では、外部講師を招聘した研修会、教職員支援機構制作の校内研修ビデオの視聴及び協議、グループ研修等を実施し、教職員の新学習指導要領、特に「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深めることができました。また、全体研修会やグループ研修実践報告会を通して、授業づくりや支援の方法について共有することができました。
- 教務部では、スタッフ会を定期的に開催し、個別の教育支援計画を活用しながら教員間で情報を共有し、支援に生かすことができるよう働き掛けました。また、教科等部会において、「育成を目指す資質・能力」の観点から各教科の実施上の方針を見直すなど、新学習指導要領の趣旨を踏まえた取組を推進することができました。